

野村日本債券ファンド (確定拠出年金向け)

運用報告書(全体版)

第18期(決算日2020年1月24日)

作成対象期間(2019年1月25日~2020年1月24日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

●当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/国内/債券	
信託期間	2002年1月25日以降、無期限とします。	
運用方針	親投資信託である日本アクティブ債券マザーファンド受益証券を主要投資対象とし、信託財産の成長を目標に運用を行うことを基本とします。なお、直接公社債等に投資する場合があります。ファンドはNOMURA-BPI総合をベンチマークとします。	
主な投資対象	野村日本債券ファンド(確定拠出年金向け)	「日本アクティブ債券マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	日本アクティブ債券マザーファンド	わが国の公社債を主要投資対象とします。
主な投資制限	野村日本債券ファンド(確定拠出年金向け)	株式への直接投資は行いません。 株式への投資は、転換社債を転換したものに限り、株式への投資割合は信託財産の純資産総額の10%以内とします。
	日本アクティブ債券マザーファンド	株式への投資は行いません。
分配方針	毎決算時に、原則として経費控除後の繰越分を含めた利子・配当収入と売買益(評価益を含みます。)等から基準価額の水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。	

野村アセットマネジメント

東京都中央区日本橋1-12-1



サポートダイヤル 0120-753104
(受付時間) 営業日の午前9時~午後5時

ホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	基準価額			ベンチマーク		債券組入比率	債券先物比率	純資産額
		税金	み	期	NOMURA-BPI総合	騰			
	円	分	金	騰	騰	騰	%	%	百万円
14期(2016年1月25日)	13,034		5	1.0	370.386	1.3	93.2	—	13,358
15期(2017年1月24日)	13,319		5	2.2	379.053	2.3	98.0	—	14,776
16期(2018年1月24日)	13,328		5	0.1	379.814	0.2	97.2	—	14,633
17期(2019年1月24日)	13,452		5	1.0	385.098	1.4	93.9	—	15,529
18期(2020年1月24日)	13,628		5	1.3	390.419	1.4	98.3	—	16,373

*基準価額の騰落率は分配金込み。

*当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

*債券先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		ベンチマーク		債券組入比率	債券先物比率
	円	騰落率	NOMURA-BPI総合	騰落率		
(期首) 2019年1月24日	13,452	—	385.098	—	93.9	—
1月末	13,466	0.1	385.580	0.1	93.3	—
2月末	13,495	0.3	386.427	0.3	94.4	—
3月末	13,586	1.0	389.143	1.1	94.9	—
4月末	13,542	0.7	387.945	0.7	94.5	—
5月末	13,627	1.3	390.322	1.4	95.6	—
6月末	13,712	1.9	392.695	2.0	97.4	—
7月末	13,731	2.1	393.155	2.1	95.6	—
8月末	13,910	3.4	398.496	3.5	95.8	—
9月末	13,749	2.2	394.271	2.4	98.2	—
10月末	13,696	1.8	392.608	2.0	99.0	—
11月末	13,656	1.5	391.325	1.6	98.6	—
12月末	13,621	1.3	390.136	1.3	99.2	—
(期末) 2020年1月24日	13,633	1.3	390.419	1.4	98.3	—

*期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

*当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

*債券先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

NOMURA-BPI総合（NOMURA-ボンド・パフォーマンス・インデックス総合）は、野村証券株式会社が作成している指数で、当該指数に関する一切の知的財産権とその他一切の権利は野村証券株式会社に帰属しております。また、野村証券株式会社は、当該インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

◎運用経過

○期中の基準価額等の推移



期 首：13,452円

期 末：13,628円（既払分配金（税込み）：5円）

騰落率： 1.3%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首（2019年1月24日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) ベンチマークは、NOMURA-BPI総合です。ベンチマークは、作成期首（2019年1月24日）の値が基準価額と同一となるように計算しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首13,452円から期末13,633円（分配金込み）に181円の値上がりとなりました。

上昇要因：・欧米中央銀行の金融緩和姿勢の強まりから海外債券利回りの低下が進み、それに連れる形で国内債券利回りが低下（価格は上昇）したこと
・保有する債券から金利収入を得たこと

下落要因：・2019年10月以降、グローバル経済に底打ちの兆しが見られ始めたことや、日銀の追加緩和期待が後退したこと等から、国内債券利回りが上昇（価格は下落）したこと

○投資環境

期首の10年国債利回りは0%程度でスタートしました。2019年3月には、ECB（欧州中央銀行）がフォワードガイダンス（将来の指針）を強化するなど金融緩和姿勢を強めたことで、世界的な利回り低下に連れて国内債券利回りの低下が続きました。5月以降は、トランプ米大統領による対中関税の引き上げ表明によって通商問題悪化への懸念が高まったことや、欧米中央銀行の金融緩和に向けた姿勢が強まったことで、一段と債券利回りの低下が進み、8月には10年国債利回りは一時-0.30%程度まで低下しました。その後9月に入ると、日銀の黒田総裁が債券利回りの過度な低下に対する警戒的な意見を表明したことや、日銀の国債買い入れ金額が減額されたことなどから、債券利回りは上昇に転じました。10月に開催された日銀金融政策決定会合では追加緩和が見送られたことや、グローバル経済に底打ちの兆しが見られ始めたこと等から利回り上昇が続き、期末の10年国債利回りは0%程度となりました。

○当ファンドのポートフォリオ

〔野村日本債券ファンド（確定拠出年金向け）〕

親投資信託である〔日本アクティブ債券マザーファンド〕受益証券の組み入れを高位に維持しました。

〔日本アクティブ債券マザーファンド〕

・デュレーション

基本運用方針に従いポートフォリオのデュレーション（金利感応度）は、ベンチマークのデュレーション程度に維持しました。

・現物債券ポートフォリオの推移

<残存年数別構成>

期首はベンチマーク対比で中期及び超長期債の組み入れを多めとしていました。期中、イールドカーブ（利回り曲線）の割安割高分析に基づいて、長期・超長期債のウェイトを機動的に調整しました。期末には超長期債中心のポートフォリオとしています。

<種別構成>

信用市場の安定推移を見込み、事業債をオーバーウェイト（ベンチマーク対比で多めの組み入れ）としました。期中、信用力の安定が見込まれる事業債の組み入れを行いました。

○当ファンドのベンチマークとの差異

今期の基準価額の騰落率※は+1.3%となり、ベンチマークであるNOMURA-BPI総合の騰落率+1.4%を0.1ポイント下回りました。

※基準価額の騰落率は、分配金（税込み）込みで算出しております。

【主な差異要因】

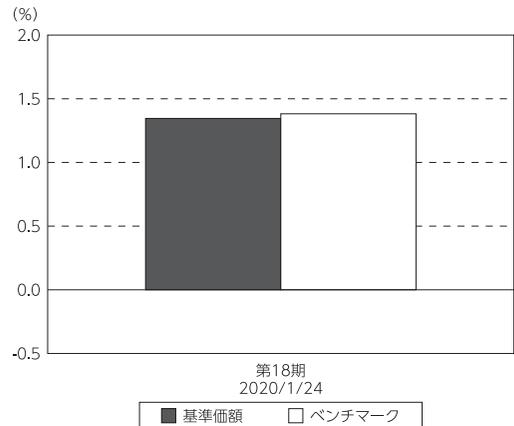
（プラス要因）

- ・金利低下幅の大きかった超長期債の組み入れを多めとしたこと
- ・ベンチマーク対比でスプレッド（国債に対する上乗せ金利）の厚い事業債を多めに組み入れていたこと

（マイナス要因）

- ・信託報酬等、ファンド運用に関わる諸コストを計上したこと

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) ベンチマークは、NOMURA-BPI総合です。

◎分配金

分配金につきましては、基準価額水準等を勘案して1万口当たり5円とさせていただきます。

なお留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税込み)

項目	第18期
	2019年1月25日～ 2020年1月24日
当期分配金	5
(対基準価額比率)	0.037%
当期の収益	5
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	3,627

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

◎今後の運用方針

[日本アクティブ債券マザーファンド]

- ・国内景気は、労働市場の引き締まりを背景とした雇用拡大と賃上げの動きが続く中、個人消費活動を中心に緩やかに回復していくと考えています。国内金利については、日銀による「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」（イールドカーブ・コントロール）が継続する下で、低水準での推移が継続すると予想しています。ただし、日銀は国債買入金額の減額を進めてきているため、海外金利が上昇する際には国内金利が連動して上昇しやすい点には注意が必要と考えております。
- ・引き続きポートフォリオのデュレーションをベンチマークのデュレーション程度に原則として維持し、イールドカーブの形状分析、債券種別間（セクター等）のスプレッド分析や個別発行体の信用リスク分析等に基づき、割安と判断される銘柄に投資することにより超過収益の獲得を目指します。

[野村日本債券ファンド（確定拠出年金向け）]

主要投資対象である〔日本アクティブ債券マザーファンド〕の組み入れを高位に維持して、基準価額の向上に努めます。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2019年 1 月25日～2020年 1 月24日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 83	% 0.605	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(38)	(0.275)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
（ 販 売 会 社 ）	(38)	(0.275)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
（ 受 託 会 社 ）	(8)	(0.055)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) そ の 他 費 用	0	0.002	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	83	0.607	
期中の平均基準価額は、13,649円です。			

* 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

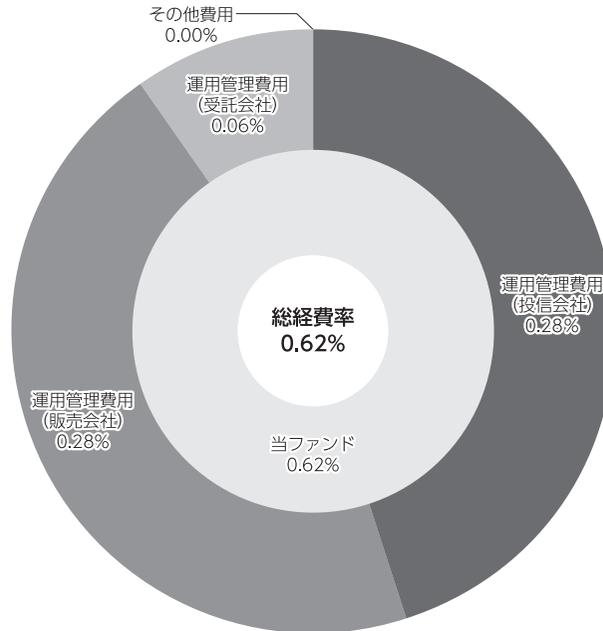
* 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

* その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

* 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)**○総経費率**

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.62%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2019年1月25日～2020年1月24日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
日本アクティブ債券マザーファンド	千口 1,010,762	千円 1,568,100	千口 666,722	千円 1,036,700

*単位未満は切り捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2019年1月25日～2020年1月24日)

利害関係人との取引状況

<野村日本債券ファンド（確定拠出年金向け）>
該当事項はございません。

<日本アクティブ債券マザーファンド>

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B		売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	
			$\frac{B}{A}$			$\frac{D}{C}$
公社債	百万円 39,117	百万円 -	% -	百万円 37,693	百万円 303	% 0.8

平均保有割合 100.0%

*平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該子ファンドのマザーファンド所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは野村證券株式会社です。

○組入資産の明細

(2020年1月24日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期	末
	口 数	口 数	評 価 額
日本アクティブ債券マザーファンド	千口 10,157,512	千口 10,501,553	千円 16,343,567

*口数・評価額の単位未満は切り捨て。

親投資信託における組入資産の明細につきましては、後述の親投資信託の「運用報告書」をご参照ください。

○投資信託財産の構成

(2020年1月24日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
日本アクティブ債券マザーファンド	16,343,567	99.4
コール・ローン等、その他	93,042	0.6
投資信託財産総額	16,436,609	100.0

*金額の単位未満は切り捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2020年1月24日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	16,436,609,132
コール・ローン等	91,341,536
日本アクティブ債券マザーファンド(評価額)	16,343,567,596
未収入金	1,700,000
(B) 負債	63,071,966
未払収益分配金	6,007,395
未払解約金	7,163,443
未払信託報酬	49,720,340
未払利息	51
その他未払費用	180,737
(C) 純資産総額(A-B)	16,373,537,166
元本	12,014,790,801
次期繰越損益金	4,358,746,365
(D) 受益権総口数	12,014,790,801口
1万口当たり基準価額(C/D)	13,628円

(注) 期首元本額は11,544,773,814円、期中追加設定元本額は2,191,829,896円、期中一部解約元本額は1,721,812,909円、1口当たり純資産額は1.3628円です。

○損益の状況 (2019年1月25日～2020年1月24日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 32,512
支払利息	△ 32,512
(B) 有価証券売買損益	277,652,002
売買益	316,583,571
売買損	△ 38,931,569
(C) 信託報酬等	△ 97,127,963
(D) 当期損益金(A+B+C)	180,491,527
(E) 前期繰越損益金	713,169,269
(F) 追加信託差損益金	3,471,092,964
(配当等相当額)	(3,208,459,555)
(売買損益相当額)	(262,633,409)
(G) 計(D+E+F)	4,364,753,760
(H) 収益分配金	△ 6,007,395
次期繰越損益金(G+H)	4,358,746,365
追加信託差損益金	3,471,092,964
(配当等相当額)	(3,210,023,201)
(売買損益相当額)	(261,069,763)
分配準備積立金	887,653,401

*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含まず。

*損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

*損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

（注）分配金の計算過程（2019年1月25日～2020年1月24日）は以下の通りです。

項 目	当 期
	2019年1月25日～ 2020年1月24日
a. 配当等収益(経費控除後)	63,906,329円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	116,585,198円
c. 信託約款に定める収益調整金	3,471,092,964円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	713,169,269円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	4,364,753,760円
f. 分配対象収益(1万円当たり)	3,632円
g. 分配金	6,007,395円
h. 分配金(1万円当たり)	5円

○分配金のお知らせ

1万円当たり分配金（税込み）	5円
----------------	----

○お知らせ

該当事項はございません。

日本アクティブ債券マザーファンド

運用報告書

第18期（決算日2020年1月24日）

作成対象期間（2019年1月25日～2020年1月24日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

●当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	わが国の公社債を主要投資対象とし、信託財産の成長を目標に運用を行うことを基本とします。公社債への投資にあたっては、ポートフォリオのデュレーションをNOMURA-BPI総合のデュレーション程度に原則として維持することにより、わが国の債券市場の動きを捉えることを目指します。また、イールドカーブの形状分析、債券種別間（セクター等）のスプレッド分析や個別発行体の信用リスク分析等に基づき、割安と判断される銘柄に投資することにより、超過収益の獲得を目指します。なお、運用の効率化を図るために、債券先物取引を活用することがあります。
主な投資対象	わが国の公社債を主要投資対象とします。
主な投資制限	株式への投資は行いません。

野村アセットマネジメント

東京都中央区日本橋 1-12-1

<http://www.nomura-am.co.jp/>

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額		ベンチマーク		債組入比率	債券先物比率	純資産額
	期騰落	中率	NOMURA-BPI総合	期騰落			
	円	%		%	%	%	百万円
14期(2016年1月25日)	14,511	1.6	370.386	1.3	93.5	—	13,318
15期(2017年1月24日)	14,922	2.8	379.053	2.3	98.2	—	14,747
16期(2018年1月24日)	15,027	0.7	379.814	0.2	97.4	—	14,603
17期(2019年1月24日)	15,264	1.6	385.098	1.4	94.1	—	15,504
18期(2020年1月24日)	15,563	2.0	390.419	1.4	98.5	—	16,344

*債券先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		ベンチマーク		債組入比率	債券先物比率
	騰落	率	NOMURA-BPI総合	騰落		
(期首) 2019年1月24日	円	%		%	%	%
	15,264	—	385.098	—	94.1	—
1月末	15,282	0.1	385.580	0.1	93.5	—
2月末	15,322	0.4	386.427	0.3	94.6	—
3月末	15,433	1.1	389.143	1.1	95.1	—
4月末	15,390	0.8	387.945	0.7	94.7	—
5月末	15,496	1.5	390.322	1.4	95.7	—
6月末	15,600	2.2	392.695	2.0	97.6	—
7月末	15,629	2.4	393.155	2.1	95.8	—
8月末	15,841	3.8	398.496	3.5	96.0	—
9月末	15,665	2.6	394.271	2.4	98.4	—
10月末	15,613	2.3	392.608	2.0	99.1	—
11月末	15,575	2.0	391.325	1.6	98.8	—
12月末	15,543	1.8	390.136	1.3	99.4	—
(期末) 2020年1月24日	円	%		%	%	%
	15,563	2.0	390.419	1.4	98.5	—

*騰落率は期首比です。

*債券先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

NOMURA-BPI総合 (NOMURA-ボンド・パフォーマンス・インデックス総合) は、野村證券株式会社が作成している指数で、当該指数に関する一切の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しております。また、野村證券株式会社は、当該インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

◎運用経過

○期中の基準価額等の推移



(注) ベンチマークは、NOMURA-BPI総合です。作成期首の値が基準価額と同一となるように計算しております。

○基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首15,264円から期末15,563円に299円の値上がりとなりました。

上昇要因：・欧米中央銀行の金融緩和姿勢の強まりから海外債券利回りの低下が進み、それに連れる形で国内債券利回りが低下（価格は上昇）したこと
・保有する債券から金利収入を得たこと

下落要因：・2019年10月以降、グローバル経済に底打ちの兆しが見られ始めたことや、日銀の追加緩和期待が後退したこと等から、国内債券利回りが上昇（価格は下落）したこと

○当ファンドのポートフォリオ

・デュレーション

基本運用方針に従いポートフォリオのデュレーション（金利感応度）は、ベンチマークのデュレーション程度に維持しました。

・現物債券ポートフォリオの推移

<残存年数別構成>

期首はベンチマーク対比で中期及び超長期債の組み入れを多めとしていました。期中、イールドカーブ（利回り曲線）の割安割高分析に基づいて、長期・超長期債のウェイトを機動的に調整しました。期末には超長期債中心のポートフォリオとしています。

<種別構成>

信用市場の安定推移を見込み、事業債をオーバーウェイト（ベンチマーク対比で多めの組み入れ）としました。期中、信用力の安定が見込まれる事業債の組み入れを行いました。

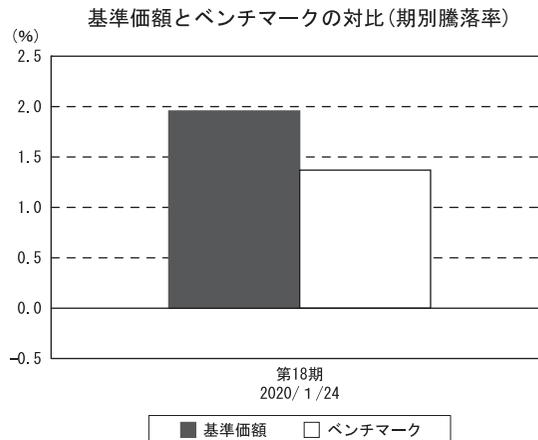
○当ファンドのベンチマークとの差異

今期の基準価額の騰落率は+2.0%となり、ベンチマークであるNOMURA-BPI総合の騰落率+1.4%を0.6ポイント上回りました。

【主な差異要因】

(プラス要因)

- ・金利低下幅の大きかった超長期債の組み入れを多めとしたこと
- ・ベンチマーク対比でスプレッド（国債に対する上乗せ金利）の厚い事業債を多めに保有したこと



(注) ベンチマークは、NOMURA-BPI総合です。

◎今後の運用方針

国内景気は、労働市場の引き締まりを背景とした雇用拡大と賃上げの動きが続く中、個人消費活動を中心に緩やかに回復していくと考えています。国内金利については、日銀による「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」（イールドカーブ・コントロール）が継続する下で、低水準での推移が継続すると予想しています。ただし、日銀は国債買入金額の減額を進めてきているため、海外金利が上昇する際には国内金利が連動して上昇しやすい点には注意が必要と考えております。

引き続きポートフォリオのデュレーションをベンチマークのデュレーション程度に原則として維持し、イールドカーブの形状分析、債券種別間（セクター等）のスプレッド分析や個別発行体の信用リスク分析等に基づき、割安と判断される銘柄に投資することにより超過収益の獲得を目指します。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○1万口当たりの費用明細

(2019年1月25日～2020年1月24日)

該当事項はございません。

○売買及び取引の状況

(2019年1月25日～2020年1月24日)

公社債

		買付額	売付額
		千円	千円
国内	国債証券	36,916,471	35,215,934
	地方債証券	—	101,487
	特殊債券	100,044	460,267
	社債券（投資法人債券を含む）	2,100,831	(17,437)
			1,916,018
			(100,000)

*金額は受け渡し代金。（経過利子分は含まれておりません。）

*単位未満は切り捨て。

*（ ）内は償還等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

*社債券（投資法人債券を含む）には新株予約権付社債（転換社債）は含まれておりません。

○利害関係人との取引状況等

(2019年1月25日～2020年1月24日)

利害関係人との取引状況

区分	買付額等 A	うち利害関係人との取引状況B		売付額等 C	うち利害関係人との取引状況D	
		百万円	%		百万円	%
公社債	39,117	—	—	37,693	303	0.8

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは野村證券株式会社です。

○組入資産の明細

(2020年1月24日現在)

国内公社債

(A) 国内(邦貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期			末			
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちBB格以下 組 入 比 率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
国債証券	7,730,000 (200,000)	8,163,913 (203,627)	50.0 (1.2)	— (—)	49.3 (0.6)	0.6 (0.6)	— (—)
地方債証券	100,000 (100,000)	101,067 (101,067)	0.6 (0.6)	— (—)	0.6 (0.6)	— (—)	— (—)
特殊債券 (除く金融債)	374,081 (374,081)	380,697 (380,697)	2.3 (2.3)	— (—)	2.3 (2.3)	— (—)	— (—)
普通社債券 (含む投資法人債券)	7,400,000 (7,400,000)	7,454,854 (7,454,854)	45.6 (45.6)	— (—)	15.4 (15.4)	24.1 (24.1)	6.1 (6.1)
合 計	15,604,081 (8,074,081)	16,100,532 (8,140,246)	98.5 (49.8)	— (—)	67.7 (19.0)	24.7 (24.7)	6.1 (6.1)

* ()内は非上場債で内書きです。

* 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

* 金額の単位未満は切り捨て。

* 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

* 残存期間が1年以内の公社債は原則として償却原価法により評価しています。

* S&Pグローバル・レーティング、ムーディーズ・インベスターズ・サービス、格付投資情報センター (R&I)、日本格付研究所 (JCR) による格付けを採用しています。

(B)国内(邦貨建)公社債 銘柄別開示

銘柄	柄	当 期 末			
		利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
国債証券		%	千円	千円	
国庫債券	利付(10年)第347回	0.1	370,000	375,931	2027/6/20
国庫債券	利付(10年)第348回	0.1	170,000	172,752	2027/9/20
国庫債券	利付(10年)第349回	0.1	1,500,000	1,524,480	2027/12/20
国庫債券	利付(10年)第351回	0.1	180,000	182,815	2028/6/20
国庫債券	利付(10年)第352回	0.1	290,000	294,416	2028/9/20
国庫債券	利付(10年)第353回	0.1	330,000	334,870	2028/12/20
国庫債券	利付(30年)第54回	0.8	220,000	244,235	2047/3/20
国庫債券	利付(30年)第56回	0.8	140,000	155,488	2047/9/20
国庫債券	利付(30年)第59回	0.7	180,000	195,262	2048/6/20
国庫債券	利付(30年)第60回	0.9	180,000	204,975	2048/9/20
国庫債券	利付(30年)第61回	0.7	100,000	108,331	2048/12/20
国庫債券	利付(30年)第62回	0.5	100,000	102,878	2049/3/20
国庫債券	利付(30年)第64回	0.4	360,000	360,000	2049/9/20
国庫債券	利付(20年)第150回	1.4	80,000	94,807	2034/9/20
国庫債券	利付(20年)第152回	1.2	760,000	880,756	2035/3/20
国庫債券	利付(20年)第156回	0.4	100,000	103,695	2036/3/20
国庫債券	利付(20年)第158回	0.5	680,000	715,162	2036/9/20
国庫債券	利付(20年)第160回	0.7	250,000	271,165	2037/3/20
国庫債券	利付(20年)第161回	0.6	30,000	32,016	2037/6/20
国庫債券	利付(20年)第163回	0.6	510,000	544,302	2037/12/20
国庫債券	利付(20年)第166回	0.7	610,000	661,258	2038/9/20
国庫債券	利付(20年)第168回	0.4	390,000	400,686	2039/3/20
国庫債券	物価連動(10年)第23回	0.1	100,000	103,863	2028/3/10
メキシコ合衆国	第25回円貨社債(2018)	0.6	100,000	99,764	2023/4/20
小	計		7,730,000	8,163,913	
地方債証券					
東京都	公募第762回	0.175	100,000	101,067	2026/12/18
小	計		100,000	101,067	
特殊債券(除く金融債)					
地方公共団体金融機構債券	第74回	0.519	100,000	102,632	2025/7/28
西日本高速道路	第34回	0.335	100,000	101,696	2027/2/16
貸付債権担保第113回住宅金融支援機構債券		0.37	86,249	87,144	2051/10/10
貸付債権担保第119回住宅金融支援機構債券		0.46	87,832	89,225	2052/4/10
小	計		374,081	380,697	
普通社債券(含む投資法人債券)					
中部電力	第500回	0.875	100,000	103,162	2024/5/24
中部電力	第511回	0.21	100,000	99,967	2026/7/24
関西電力	第507回	0.29	100,000	100,387	2023/12/20
関西電力	第521回	0.18	100,000	100,036	2023/9/20
東北電力	第490回	0.22	100,000	100,291	2023/2/24
東北電力	第509回	0.2	100,000	100,128	2024/5/24
九州電力	第447回	0.24	100,000	100,313	2023/1/25
北海道電力	第320回	0.585	100,000	100,888	2021/12/24
東京電力パワーグリッド	第4回	0.69	100,000	101,342	2024/6/20
東京電力パワーグリッド	第5回	0.48	100,000	100,779	2022/8/31

銘柄	柄	当期末			
		利率	額面金額	評価額	償還年月日
普通社債券(含む投資法人債券)		%	千円	千円	
東京電力パワーグリッド	第12回	0.44	100,000	100,666	2023/4/19
東京電力パワーグリッド	第14回	0.43	100,000	100,566	2023/7/24
東京電力パワーグリッド	第24回	0.61	100,000	101,024	2024/4/24
東京電力パワーグリッド	第33回	0.68	100,000	100,228	2027/1/27
五洋建設	第3回社債間限定同順位特約付	0.68	100,000	100,746	2021/7/30
大王製紙	第18回社債間限定同順位特約付	0.42	100,000	100,118	2022/3/22
大王製紙	第19回社債間限定同順位特約付	0.42	100,000	100,033	2022/12/14
住友化学	第2回利払繰延条項 期限前償還条項付劣後特約付	0.84	100,000	100,212	2079/12/13
イビデン	第9回社債間限定同順位特約付	0.03	100,000	99,662	2022/9/12
大陽日酸	第1回利払繰延条項・期限前償還条項付劣後特約付	1.41	100,000	102,933	2054/1/29
日本製鉄	第1回利払繰延条項・期限前償還条項付劣後特約付	0.71	100,000	100,070	2079/9/12
キッツ	第3回社債間限定同順位特約付	0.537	100,000	101,022	2022/9/16
日本電気	第48回社債間限定同順位特約付	0.658	100,000	101,265	2022/7/15
コンコルディア・フィナンシャルグループ	第1回期限前償還条項	0.5	100,000	100,170	2027/3/19
明治安田生命2016基金特定目的会社	第1回B号特定社債	0.28	200,000	200,152	2021/8/9
日本生命2017基金特定目的会社	第1回特定社債	0.304	100,000	100,081	2021/8/2
明治安田生命2017基金特定目的会社	第1回特定社債	0.35	100,000	100,228	2022/8/4
明治安田生命	第3回A号劣後特約付	1.11	100,000	102,828	2047/11/6
フタバ産業	第2回社債間限定同順位特約付	0.4	100,000	99,959	2024/3/8
日本生命第1回劣後ローン流動化利払繰延条項・期限前償還条項付		1.05	100,000	100,870	2048/4/27
住友生命第1回劣後ローン流動化第1回利払繰延条項・期限前償還		0.66	100,000	99,810	2079/6/26
日本生命第4回劣後ローン流動化利払繰延条項・期限前償還条項付		0.85	100,000	98,730	2049/11/21
ドンキホーテ	第1回利払繰延条項 期限前償還条項付劣後特約付	1.49	100,000	101,780	2053/11/28
ゼンショーホールディングス	第2回無担保社債間限定同順位特約付	0.43	100,000	100,056	2021/12/14
兼松	第4回無担保社債間限定同順位特約付	0.57	100,000	100,381	2024/12/13
阪和興業	第29回社債間限定同順位特約付	0.27	100,000	100,037	2022/6/9
イオン	第5回利払繰延条項 期限前償還条項付劣後特約付	1.8	100,000	104,470	2049/12/10
三菱UFJフィナンシャル・グループ	第17回劣後特約付	0.535	100,000	100,599	2028/5/31
三菱UFJフィナンシャル・グループ	第1回劣後特約付	0.94	100,000	102,322	2024/6/26
三井住友トラスト・ホールディングス	第1回劣後特約付	0.857	100,000	102,000	2024/9/5
三井住友トラスト・ホールディングス	第10回劣後特約付	0.55	100,000	100,642	2028/6/14
三井住友トラスト・ホールディングス	第13回劣後特約付実質破綻	0.41	100,000	99,680	2029/5/30
三菱東京UFJ銀行	第37回劣後特約付	1.39	100,000	102,902	2022/5/31
りそな銀行	第11回劣後特約付	1.78	100,000	103,362	2022/3/15
千葉銀行	第1回劣後特約付	0.911	100,000	102,282	2024/8/29
みずほフィナンシャルグループ	第1回劣後特約付	0.95	100,000	102,305	2024/7/16
みずほフィナンシャルグループ	第3回劣後特約付	0.81	100,000	101,847	2024/12/18
日産フィナンシャルサービス	第42回社債間限定同順位特約付	0.001	100,000	99,916	2020/9/18
ポケットカード	第20回社債間限定同順位特約付	0.3	100,000	100,055	2023/11/28
アコム	第68回特定社債間限定同順位特約付	0.95	100,000	101,658	2022/6/6
アコム	第74回特定社債間限定同順位特約付	0.59	100,000	101,009	2024/2/28
アコム	第78回特定社債間限定同順位特約付	0.38	100,000	99,420	2026/8/28
ジャックス	第20回社債間限定同順位特約付	0.36	100,000	100,131	2025/6/13
オリエントコーポレーション	第9回社債間限定同順位特約付	0.46	100,000	100,166	2023/7/21
オリエントコーポレーション	第11回社債間限定同順位特約付	0.41	100,000	100,282	2021/12/16
東京海上日動火災保険	第1回利払繰延条項 期限前償還条項劣後	0.96	100,000	100,271	2079/12/24

銘	柄	当 期 末			
		利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
普通社債券(含む投資法人債券)		%	千円	千円	
損保ジャパン日本興亜第3回利払繰延・期限前償還条項劣後特約付		1.06	100,000	100,668	2077/4/26
あいおいニッセイ同和損害保険第1回利払繰延・期限前償還条項劣		0.66	100,000	99,253	2079/9/10
T&Dホールディングス第3回利払繰延・期限前償還条項劣後特約		0.94	100,000	99,860	2050/2/4
三菱地所 第1回利払繰延条項 期限前償還条項付劣後特約付		1.02	100,000	100,124	2076/2/3
三菱地所 第113回担保提供制限等財務上特約無		1.067	100,000	104,583	2024/12/27
相鉄ホールディングス 第36回相模鉄道株式会社保証付		0.7	100,000	102,442	2032/1/30
センコー 第6回社債間限定同順位特約付		0.5	100,000	100,517	2021/12/3
三井倉庫ホールディングス 第16回		0.47	100,000	100,577	2025/3/7
大阪瓦斯 第1回利払繰延条項・期限前償還条項付劣後特約付		0.44	100,000	100,248	2079/12/12
ソフトバンクグループ 第54回社債間限定同順位特約付		1.569	100,000	99,608	2024/6/12
ビー・ピー・シー・イー・エス・エー 第1回非上位円貨社債		0.64	100,000	100,469	2022/1/27
ビー・ピー・シー・イー・エス・エー 第2回非上位円貨社債		0.645	100,000	100,435	2023/7/12
クレディ・アグリコル 第1回非上位円貨社債(2017)		0.443	100,000	100,094	2022/6/9
パークレイズ・ピーエルシー 第1回円貨社債(2018)		1.232	100,000	100,325	2024/9/25
ロイズ・バンキング・グループ・ピーエルシー 第6回円貨社債		0.65	100,000	99,994	2023/5/30
ルノー 第21回円貨社債(2018)		0.36	100,000	99,313	2021/7/2
ソシエテ・ジェネラル 第1回非上位円貨社債(2017)		0.448	100,000	100,105	2022/5/26
小 計			7,400,000	7,454,854	
合 計			15,604,081	16,100,532	

*額面・評価額の単位未満は切り捨て。

○投資信託財産の構成

(2020年1月24日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	千円 16,100,532	% 95.9
コール・ローン等、その他	689,140	4.1
投資信託財産総額	16,789,672	100.0

*金額の単位未満は切り捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2020年1月24日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	16,789,672,692
コール・ローン等	352,954,375
公社債(評価額)	16,100,532,483
未収入金	314,711,000
未収利息	15,771,484
前払費用	5,703,350
(B) 負債	445,648,200
未払金	443,948,000
未払解約金	1,700,000
未払利息	200
(C) 純資産総額(A-B)	16,344,024,492
元本	10,501,553,426
次期繰越損益金	5,842,471,066
(D) 受益権総口数	10,501,553,426口
1万口当たり基準価額(C/D)	15,563円

(注) 期首元本額は10,157,512,673円、期中追加設定元本額は1,010,762,954円、期中一部解約元本額は666,722,201円、1口当たり純資産額は1,5563円です。

(注) 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本額・野村日本債券ファンド(確定拠出年金向け) 10,501,553,426円

○損益の状況 (2019年1月25日～2020年1月24日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	97,546,269
受取利息	97,876,340
支払利息	△ 330,071
(B) 有価証券売買損益	210,185,631
売買益	382,878,066
売買損	△ 172,692,435
(C) 当期損益金(A+B)	307,731,900
(D) 前期繰越損益金	5,347,379,919
(E) 追加信託差損益金	557,337,046
(F) 解約差損益金	△ 369,977,799
(G) 計(C+D+E+F)	5,842,471,066
次期繰越損益金(G)	5,842,471,066

*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

*損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

*損益の状況の中で(F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

○お知らせ

該当事項はございません。